

【地域の概要】

- 本市は、市域面積の約70%が山林であり、中山間地特有の小規模農地が多く点在している。
- 耕地面積は793ha、うち担い手への集積は189ha（集積率23.8%）、遊休農地は23ha（2.8%）となっている。
遊休農地の発生防止にあたっては、中山間地域等直接支払交付金等活用するなどして、防止に努めている。
- 人・農地プランは8プラン作成しており、令和2年度に実質化を行った。

①取組開始前の状況や課題

人・農地プランの実質化

- 令和2年度に、市内8地区8プランの実質化が完了した。
- 令和2年6月に開催した人・農地プラン作成会議にて、担い手や農業委員・推進委員からの情報を取りまとめ、プランを作成した。
- 令和3年3月に開催した人・農地プラン検討会議において、出荷者協議会や担い手等の代表者が参加し、活発な話し合いが行われた。

遊休農地発生防止・農地集積の課題

- 農家の高齢化及び、後継者不足により、農地の維持管理が難しいという地域が多くなっている。遊休農地化や農地の山林化が進んでいる。
- 小規模で生産性の低い農地が多く、担い手・受託営農組織も少ないため、借受できる面積に限界がある。
- 所有者から貸し出したいと意向がある土地についても集積が難しく、今後、農地をどう守っていくかが課題となっている。

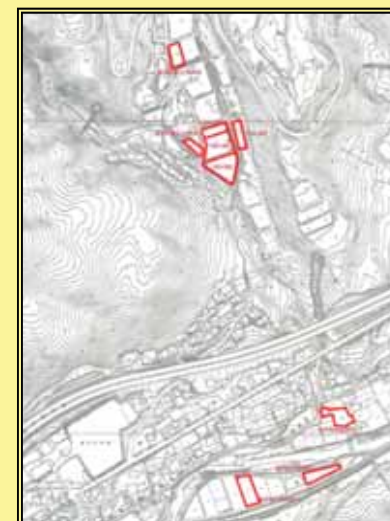
②取組内容

各地区の現状を把握（令和3年6月）

- 話し合いの開催に向けて、予め、貸付希望のあった農用地を地図に落とし込み、各委員担当地区を中心に確認作業を行った。

人・農地プランの作成会議を開催（令和3年7月）

- 7月29日に開催した作成会議に、農業委員・推進委員計22名が出席し、話し合いを行った。
- 当日は、農地の現況、形状、取水の有無、農機具の利用の可否といった地理的な情報や、耕作できるか・近隣に借り手候補者がいるかといった情報を共有し、各担当委員が集積に向けて動くこととした。
- 担い手からは、法人として営農することの有用性や、担い手でも後継者を募集していることの周知があり、各自候補者の確保に向けて動くこととした。



貸付希望のあった土地を地図化
(釜戸地区（一例）)

③今後の展開と方向性

- 話し合いで共有された情報をもとに、集積や後継者の確保等、現場活動に励む。
- 引きつづき、地域の営農に関する情報収集に、関係機関と連携して努めていく。
- 会議の場や、今後整備されるデジタル地図を活用するなど、積極的な情報共有を行う。